

# 奈良国立文化財研究所要項

## I 事業概要

### 1 研究普及事業 公開講演会

- (1) 1980年5月24日 第47回公開講演会  
「軒瓦製作技法に関する二三の問題」  
金子 裕之  
「東大寺文書の起請文について」 綾村 宏
- (2) 1980年11月15日 第48回公開講演会  
「C. J. Thomsen の再評価」 岩本 圭輔  
「平城京と京東条里」 岩本 次郎
- (4) 1980年9月27日 平城宮跡第126次発掘調査  
現地説明会 金子 裕之
- (5) 1980年11月22日 平城宮跡第127次発掘調査  
現地説明会 上原 真人
- (6) 1981年3月14日 平城宮跡第128次発掘調査  
現地説明会 本中 真

### 現地説明会

- (1) 1980年5月31日 平城宮跡第122次発掘調査  
現地説明会 菅原 正明
- (2) 1980年7月19日 藤原宮跡第29次発掘調査現  
地説明会 加藤 優
- (3) 1980年9月13日 檜隈寺第2次発掘調査現地  
説明会 岩本 正二

### 平城宮跡資料館・覆屋公開

- (1) 春季特別公開 1980年4月26日～5月6日  
見学者 7,266名
- 秋季特別公開 1980年10月26日～11月9日  
見学者 18,596名

### (2) 見学者数

区 分	資料館	覆 屋	計
1980年	40,543	89,103	129,646
累 計	366,227	716,775	1,078,833

\* 資料館は1970年度・覆屋は1968年度以降

## 2 1980年度文部省科学研究費補助金による研究

種 別	研 究 課 題	研 究 代 表 者	交 付 額
特 定 研 究 (1)	地下遺構探索の新技法の開発	田 中 琢	4,500千円
〃	遺構保存の工法研究	佐 原 真	5,500
〃	石器製作技術の復原研究法	松 沢 垂 生	3,000
一 般 研 究 (A)	大和国荘園の復原的研究	田 中 稔	6,000
一 般 研 究 (C)	古代高床倉庫の系譜的研究	木 下 正 史	500
〃	民家の軸部構造の系統的発展に関する研究	吉 田 靖	400
〃	堅穴式住居の構造と立地条件に関する研究	宮 本 長 二 郎	400
〃	日朝都城制の比較研究	佐 藤 興 治	1,000
一 般 研 究 (D)	鷗尾の様式の研究	大 脇 潔	450
〃	律令制下村落の変質過程に関する考古学的研究	松 村 恵 司	470
奨 励 研 究 (A)	公家新制の収集と校訂	清 田 善 樹	800
〃	中世庶民生活の考古学的復原	安 田 龍 太 郎	650
〃	中部山岳地帯における古式古墳の研究	立 木 修	800
〃	古代寺院造成技法の研究	清 水 真 一	850
計	14 件		25,320

## 3 飛鳥資料館の運営

(1980. 10. 8～1980. 11. 24)

### 展 示

- 第一展示室 常設展示  
第二展示室 特別陳列「高取の仏像」  
(1980. 4. 22～1980. 6. 1)  
特別展示「日本古代の鷗尾」

### 普 及

前年同様インフォメーションルームで観覧者の質問に応じている。また特別展示のカタログとして「高取の仏像」及び「日本古代の鷗尾」を刊行した。

入館者数(1980.4.1～1981.3.31 開館日数304日)

	普通観覧	団体観覧	有 料	無 料	合 計
一 般	46,175	27,265	184,768	8,290	193,058
高・大	18,859	31,767			
小・中	13,145	47,557			
計	78,179	106,589			

模造製作

山王廃寺鷄尾  
山田寺礎石  
坂田寺金堂須弥壇石

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研 修 埋蔵文化財の保護に資することを目的として主に地方公共団体の埋蔵文化財保護行政担当者を対象に次の研修を実施した。

(1) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等専門研修  
(遺跡測量基礎課程)

1980年5月16日～5月22日(参加者16名)

(2) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等専門研修  
(遺跡測量応用課程)

1980年5月23日～5月29日(参加者13名)

(3) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等特別研修  
(埋蔵文化財基礎課程)

1980年6月9日～6月13日(参加者30名)

(4) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等専門研修  
(遺跡保存整備課程)

1980年7月1日～7月10日(参加者18名)

(5) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等専門研修  
(縄文・弥生遺跡調査課程)

1980年9月25日～10月4日(参加者26名)

(6) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等専門研修  
(歴史時代遺跡調査課程)

1980年11月5日～11月15日(参加者24名)

(7) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等専門研修  
(遺物保存科学課程)

1980年12月1日～12月13日(参加者23名)

(8) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等専門研修  
(自然遺物課程)

1981年1月19日～1月31日(参加者12名)

(9) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等特別研修  
(特別調査技術課程)

1981年2月16日～2月18日(参加者35名)

(10) 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者等専門研修

(遺物整理課程)

1981年2月23日～3月7日(参加者23名)

(11) 研修員受入

ア. 飯田 良一(三重県立四日市西高等学校教諭)

山下 雅春(三重県朝日町立朝日小学校教諭)

1980年6月2日～7月31日

高見 宜雄(三重県磯部町立磯部小学校教諭)

増田 安生(三重県明和町立明和中学校教諭)

1980年10月1日～10月31日

イ. 崔 光南(大韓国籍, 東京芸術大学修士)

1980年6月15日～6月24日

ウ. 山田 拓伸((財)大阪文化財センター技師)

1980年6月9日～7月31日

エ. 河村 吉行(山口大学助手)

1980年6月30日～7月5日

オ. 三野 紀雄(北海道開拓記念館研究員)

1980年12月15日～1981年3月5日

カ. 張 慶浩(大韓民国文化財研究所美術工芸研究室長)

1980年12月22日～1981年2月18日

キ. Kim Hongju(大韓民国慶州博物館員)

1981年3月9日～3月31日

発掘調査・整備等指導

(北海道)開陽丸遺跡, (青森)弘前城跡三の丸庭園, (岩手)志波城跡, 国見山廃寺跡, 毛越寺庭園, (福島)慧日寺跡地内徳一廟, (茨城)神野向遺跡, (栃木)下野国府跡, 下野薬師寺, (群馬)上野国分寺跡, (石川)石動山塔跡, (山梨)寺本廃寺, (長野)森將軍塚古墳, 松本城二の丸書院跡, (岐阜)江馬氏館跡, (静岡)興国寺城跡(愛知)勝川廃寺遺跡, (三重)川原井瓦窯跡, 北堀池遺跡, 宝塚古墳, 西明寺遺跡, (滋賀)榎木原遺跡, (京都)恵解山古墳, 双ヶ岡1号墳, 国道9号バイパス関係遺跡, 恭仁京跡, (大阪)七尾瓦窯跡, (兵庫)田能遺跡, 大陣原窯跡, 繁昌廃寺跡, 緑風台窯跡, 西条廃寺跡, 猪名川流域下水道原田処理場内遺跡, 加古川市内遺跡, (奈良)平野塚穴山古墳, 大塚山古墳, 新沢千塚古墳

群、(和歌山)岩橋千塚古墳群、(鳥取)鳥取城跡、伯耆国分寺跡、(鳥根)山城郷正倉跡、富田川河床遺跡、丁の坪遺跡、広瀬町内遺跡群、(岡山)美作国分寺跡、小坂西沖の店遺跡、院庄館跡、(広島)下本谷遺跡、冠遺跡、(山口)長門国府周辺遺跡、大内氏遺跡、(徳島)阿波国分寺跡、(香川)讃岐国分寺跡、(愛媛)鶴が峠遺跡、(福岡)太宰府跡関連史跡、(佐賀)丸山遺跡、安永田遺跡、(熊本)宇土城跡、(宮崎)宮崎学園都市遺跡、(鹿児島)薩摩国分寺跡、(沖縄)今帰仁城跡、野国貝塚

#### 埋蔵文化財ニュース刊行

第26号 埋蔵文化財関係調査報告書刊行数の推移

第27号 昭和54年度緊急発掘調査費用負担事業種別集計

第28号 層位・遺跡断面等の剥ぎ取り転写法

第29号 埋蔵文化財担当専門職員配置市町村一覧

第30号 遺跡の管理実態調査

第31号 木製遺物の保存科学

## 5 その他

### 委員会等

第7回飛鳥資料館運営協議会

1980年5月20日 於飛鳥資料館

平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会

1980年6月6日・7日 於平城宮跡資料館

集落町並保存対策に関する研究会

1980年12月2日・3日 於平城宮跡資料館

### 外国出張

鬼頭清明 文部省在外研究員として西域出土敦煌文書の調査研究のため東ドイツ民主共和国、ギリシャ、ルーマニア、フランスに派遣。

1980年8月4日～同年9月29日

西村康，小林謙一 西北ヨーロッパにおける長形墳・円形墳の比較考古学的研究のため連合王国・アイルランドに派遣。

1980年8月11日～同年10月11日

### 協力事業等

文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度から当研究所が文化庁から支出委任を受けて買収事務を担当しているが、1980年度の状況は下記の通り。

区分	面積	購入額
1980年度	30,516.89 m <sup>2</sup>	580,884,683円
国有地合計	231,126.3	3,991,350,993

## Ⅱ 図書及び資料

図書 55,299冊

区分	種別	贈入	寄贈	計
1980年	和漢書	1,512	2,926	4,438
	洋書	290	57	347
累計	和漢書	28,823	22,664	51,487
	洋書	3,310	502	3,812

写真 204,339点 (1980年度末現在)

## Ⅲ 研究成果刊行物

1980年度刊行物

名	称
学報 第39冊	平城宮発掘調査報告Ⅹ
史料 第20冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅶ
第21冊	東大寺文書目録 第3巻
図録 第7冊	日本古代の鷓尾
基準資料第8冊	瓦編8
概報 他	昭和54年度平城宮跡発掘調査概報 飛鳥・藤原宮発掘調査概報10 平城宮発掘調査出土木簡概報13 藤原宮出土木簡4 平城京九条大路発掘調査概報 平城宮北辺地域発掘調査報告書

## 前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師運慶の研究
	第2冊	修学院離宮の復原的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代僧房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中世庭園文化史
	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告
1959	第8冊	文化史論叢Ⅱ
	第9冊	川原寺発掘調査報告
1960	第10冊	平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告
1961	第11冊	院家建築の研究
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏快慶
	第13冊	寝殿造承庭園の立地的考察
	第14冊	レースと金亀舎利塔に関する研究
	第15冊	平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査

年度	名	称
1963	第16冊	平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査
1965	第17冊	平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査
	第18冊	小堀遠州の作事
1967	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1969	第20冊	名物裂の成立
1971	第21冊	研究論集Ⅰ
1973	第22冊	研究論集Ⅱ
1974	第23冊	平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条三坊の調査
	第24冊	高山一町並調査報告一
1975	第25冊	平城京左京三条二坊
	第26冊	平城宮発掘調査報告Ⅶ
	第27冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
	第28冊	研究論集Ⅲ
	第29冊	木曾奈良井一町並調査報告一
1976	第30冊	五条一町並調査の記録一
1977	第31冊	飛鳥・藤原宮発掘調査増告Ⅱ
	第32冊	研究論集Ⅳ
	第33冊	イタリア中部の一山岳集落における民家調査報告
	第34冊	平城宮発掘調査報告Ⅸ
1978	第35冊	研究論集Ⅴ
	第36冊	平城宮整備調査報告Ⅰ
1979	第37冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第38冊	研究論集Ⅵ

奈良国立文化財研究所史料

年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集(複製)
1955	第2冊	西大寺寂尊伝記集成
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊	俊乗坊重源史料集成
1966	第5冊	平城宮木簡1 図版
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊	平城宮木簡1 解説(別冊)
1970	第7冊	唐招提寺史料1
1974	第8冊	平城宮木簡2 図版・解説
	第9冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ
1975	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ
1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ
1977	第12冊	藤原宮木簡1 図版・解説
	第13冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ
1978	第14冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅴ
	第15冊	東大寺文書目録第1巻
1979	第16冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅵ
	第17冊	平城宮木簡3 図版・解説
	第18冊	藤原宮木簡2 図版・解説
	第19冊	東大寺文書目録第2巻

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名	称
1973	第1冊	瓦編1 解説
1974	第2冊	瓦編2 解説
1975	第3冊	瓦編3
1976	第4冊	瓦編4
	第5冊	瓦編5
1978	第6冊	瓦編6
1979	第7冊	瓦編7

飛鳥資料館図録

年度	名	称
1976	第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏
	第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇
1977	第3冊	日本古代の墓誌
1978	第4冊	日本古代の墓誌 銘文篇
	第5冊	古代の誕生仏
1979	第6冊	飛鳥時代の古墳—高松塚とその周辺—

IV 定員

	指定職	行政一	行政二	研究職	計
1979年度	1	23	6	69	99
1980年度	1	23	6	66	96

V 予算(1980年度)

人件費	398,830千円
運営費	597,546
事業管理	6,199
一般研究	54,211
特別研究	2,160
発掘調査	350,682
宮跡整備管理	48,394
飛鳥資料館運営	45,882
埋蔵文化財センター運営	41,251
新庁舎統合移転に伴う経費	48,767
施設費	395,689
施設整備費	40,050
平城宮跡地等整備費	250,511
各所修繕	5,128
不動産購入費	100,000
計	1,392,065

VI 施設

土地	32,501 m <sup>2</sup> (当所所管)
本庁舎	8,860 m <sup>2</sup>
飛鳥資料館	17,092 m <sup>2</sup>
飛鳥資料館宿舍	1,343 m <sup>2</sup>
郡山宿舍	80 m <sup>2</sup>
春日野	5,126 m <sup>2</sup>
計	1,231,939 m <sup>2</sup> (文化庁所管)
平城宮跡地区	999,943 m <sup>2</sup>
藤原宮跡地区	231,126 m <sup>2</sup>
飛鳥稲淵宮殿跡地	870 m <sup>2</sup>

建 物

建 物	本庁舎	平城	藤原	飛鳥資料館	春日野	計
事務室	m <sup>2</sup> 543	m <sup>2</sup> 1,820	m <sup>2</sup> 503	m <sup>2</sup> 152	m <sup>2</sup> 797	m <sup>2</sup> 3,815
研究室	1,433					1,433
図書・室	1,021				110	1,131
会議室	338	192		42	40	612
講堂				89	109	198
展示室		360		648		1,008
写真室	90	192	61	49		392
覆屋・棟		1,518				1,518
車庫	84	363	217	94		758
倉庫・庫	123	5,608	1,667			7,398
収蔵棟	1,416					1,416
その他	1,733	579	152	1,608	23	4,095
計	6,781	10,632	2,600	2,682	1,079	23,774
重要文化財旧米谷家住宅						213
合計						23,987

主要工事

(1) 施設整備費

飛鳥藤原宮跡発掘調査部収蔵庫新設その他工事 千円  
5,000

(建設省近畿地方建設局委任工事分)

本庁舎車庫等新営工事 32,123

(2) 平城宮跡地等整備費

平城宮跡地環境整備工事 145,000

藤原宮跡地環境整備工事 15,000

庁舎周辺整備工事 44,800

平城宮跡資料館改修工事 45,200

平城宮跡地内下水道築造工事 16,000

木筒前処理室新営工事 5,000

(3) 各所修繕

平城宮跡資料館屋根塗装工事 4,000

(4) 庁費

旧米谷家住宅管理棟新営工事 2,650

Ⅶ 人事異動

(1980年4月1日～1981年3月31日)

4月1日 庶務部長に転任 森 春見  
 辞職 小島 廣治  
 平城宮跡発掘調査部考古第三調査室長に昇任 山本 忠尚  
 庶務部会計課課長補佐に昇任

福島 郁夫  
 庶務部庶務課専門員に転任  
 日高 参夫  
 辞職 栢本 安臣  
 庶務部会計課専門職員に配置換  
 西田 健三  
 文化庁文化財保護部無形文化民俗文化課専門職員に転任 加藤 建夫  
 庶務部会計課用度係長に昇任  
 新井 耕治  
 大阪大学文学部会計掛長に転任  
 乾 敏光  
 平城宮跡発掘調査部遺構調査室に転任  
 山岸 常人  
 文化庁文化財保護部建造物課に転任  
 中村 雅治  
 研究補佐員採用 滝本 正志  
 4月5日 奈良国立博物館仏教美術資料研究センター仏教美術研究室長に転任  
 田中 義恭  
 奈良国立博物館仏教美術資料研究センター仏教美術研究室に転任  
 百橋 明穂  
 4月10日 庶務部庶務課庶務係長に転任  
 藤原 賢二  
 4月15日 辞職 大場 範子  
 6月30日 辞職 中村美千代・吉村 郁子  
 7月1日 庶務部会計課専門職員に昇任  
 渡辺 康史  
 7月31日 辞職 盛 峰雄  
 8月1日 研究補佐員採用 藤田 広幸  
 9月30日 辞職 田辺 征夫  
 10月1日 文化庁文化財保護部記念物課文化財調査官に転任 黒崎 直  
 平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任  
 菅原 正明  
 12月1日 庶務部会計課に転任 吉村 義徳  
 京都国立博物館管理課施設係長に転任  
 奥村 末儀  
 1月1日 平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任  
 甲斐 忠彦  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に昇任  
 上野 邦一  
 3月30日 辞職 堀内 博子

3月31日 文化庁文化財保護部管理課国立歴史民俗博物館（仮称）設立準備室歴史総主幹に転任 田中 稔  
 3月31日 辞職 甲斐 忠彦

Ⅷ 組織規定

文部省設置法 抜萃

昭和24年法律第146号  
 昭和43年6月15日一部改正

第36条 第43条に規定するもののほか、文化庁に次の機関を置く。

国立文化財研究所（前後略）

第41条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関とする。

- 2 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。
- 3 国立文化財研究所及びその支所の名称、位置及び内部組織は、文部省令で定める。

文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令第2号、追加昭和43年6月15日文部省令第20号  
 昭和45年4月17日文部省令第11号、  
 昭和48年4月12日文部省令第6号、  
 昭和49年4月11日文部省令第10号、  
 昭和50年4月2日文部省令第13号、  
 昭和51年5月10日文部省令第16号、  
 昭和52年4月18日文部省令第10号、  
 昭和53年4月5日文部省令第19号、  
 昭和53年9月9日文部省令第33号、  
 昭和55年4月5日文部省令第14号、  
 昭和55年6月25日文部省令第23号

第5章 文化庁の附属機関

第4節 国立文化財研究所

第116条の9 国立文化財研究所の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東京都台東区
奈良国立文化財研究所	奈良県奈良市

第2款 奈良国立文化財研究所

(所長)

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

- 2 所長は所務を掌理する。

(内部組織)

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

- 2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

(庶務部の分課及び事務)

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

- 一 庶務課
  - 二 会計課
  - 2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。
    - 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
    - 二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。
    - 三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
    - 四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。
    - 五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。
    - 六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。
  - 3 会計課においては、次の事務をつかさどる。
    - 一 予算に関する事務を処理すること。
    - 二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。
    - 三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
    - 四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。
    - 五 庁内の取締りに関すること。
- (建造物研究室等の事務)

第127条 建造物研究室においては、建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

- 2 歴史研究室においては、考古及び史跡並びに歴史資料に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

(平城宮跡発掘調査部の六室及び事務)

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

- 2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第六項までに定める事務を処理するほかその発掘を行う。
- 3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより

分担して、遺物（木簡を除く）の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部の四室及び事務）

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関し、次項から第五項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。

3 考古第一調査室及び考古第二調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物（木簡を除く）の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

5 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

（飛鳥資料館）

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行う。

（飛鳥資料館の館長）

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理する。

（飛鳥資料館の二室及び事務）

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

一 飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行うこと。

二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行うこと。

三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行うこと。

（埋蔵文化財センター）

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

一 埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うこと。

二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行うこと。

三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行うこと。

四 埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管及び調査研究を行い、並びに地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、その利用に供すること。

（埋蔵文化財センターの長）

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

（埋蔵文化財センターの内部組織）

第135条 埋蔵文化財センターに、教務室、研究指導部及び情報資料室を置く。

（教務室の事務）

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

（研究指導部の五室及び事務）

第137条 研究指導部に、考古計画研究室、集落遺跡研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室を置く。

2 考古計画研究室においては、第133条第1号から第3号までに掲げる事務（他の室の所掌に

- 属するものを除く。)をつかさどる。
- 3 集落遺跡研究室においては、集落遺跡に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務(遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室の所掌に属するものを除く。)をつかさどる。
- 4 遺物処理研究室においては、遺物の処理に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。
- 5 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に

- 関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。
- 6 保存工学研究室においては、遺跡の保存整備に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。  
(情報資料室の事務)
- 第138条 情報資料室においては、第133条第4号に掲げる事務をつかさどる。

### 奈良国立文化財研究所略年表

- 昭和26.10. 6 奈良文化財研究所設置準備規程(文化財保護委員会裁定第11号)により設置準備会発足。
27. 4. 1 文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所(庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室)設置。
29. 7. 1 奈良国立文化財研究所と改称。
- 35.10.15 平城宮跡に発掘調査事務所設置。
36. 9.16 庶務室は庶務課とする。
38. 4.10 平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39. 4. 1 平城宮跡発掘調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40. 4. 1 平城宮跡発掘調査部に新たに第四調査室を置く。
43. 6.15 文化庁発足、その附属機関となる。
45. 4.15 平城宮跡資料館開館。
45. 4.17 平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48. 4.12 会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部(第一調査室、第二調査室)、飛鳥資料館(庶務室、学芸室)設置。
49. 4.11 庶務部(庶務課、会計課)、埋蔵文化財センター(教務室、考古計画研究室、測量研究室)設置。
50. 3.15 飛鳥資料館開館。
50. 4. 2 埋蔵文化センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設。
51. 5.10 埋蔵文化センター研究指導部に集落遺跡研究室新設。
- 52.10. 1 埋蔵文化センター研究指導部に保存工学研究室新設。
53. 4. 5 飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室と改める。
- 53.10. 1 埋蔵文化財センターに情報資料室新設。
55. 4. 5 美術工芸研究室を奈良国立博物館(仏教美術資料研究センター)に移換。
55. 4.26 庁舎移転(奈良市二条町)、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合。



職員 (1981年6月1日現在)

所属	氏名	官職	担当
	坪井 清足	文部技官 所長	
庶務課	森 春見	文部事務官 部長	
	三森 武雄	文部事務官 課長	平城事務
	織田 健蔵	文部事務官 課長補佐	
	日高 参夫	文部事務官 専門員	
	藤原 賢二	文部事務官 庶務係長	
	西 徹	文部事務官 警務員	庶務人事
	木寅 忠雄	文部事務官 警務員	警備
	森田 光治	文部事務官 警務員	警備
	岡田 博死	文部事務官 警務員	警備
	八幡 扶桑	文部技官 専門員(併任)	写真
	穴戸 雅子	事務補佐員	庶務人事
	港 悦子	事務補佐員	庶務
	村田 惠子	事務補佐員	庶務
	宮本 宣代	事務補佐員	図書資料
	中川 かよ	事務補佐員	図書資料
中垣 睦美	事務補佐員	平城事務	
寺田 千鶴	事務補佐員		
城本 きよ	業務補佐員		
會計部	笹山 保美	文部事務官 課長	長 佐
	廣澤 常一	文部事務官 課長補佐	員
	福島 郁夫	文部事務官 専門員	長
	西田 健三	文部技官 専門員	長
	渡辺 康史	文部事務官 経理	
	冬野 徹	文部事務官 経理	
	忠 利二	文部事務官 経理	
	前川 重子	事務補佐員	
	橋本 伴子	事務補佐員	
	新井 耕治	文部事務官 用度係長	
	刀谷 敏博	文部事務官 用度係長	
	中西 建夫	文部技官 用度係長	
	垣内 きよ	事務補佐員	
	太田 博史	事務補佐員	施設整備(併任)
	渡辺 康史	文部技官 施設整備(併任)	
吉村 義徳	文部技官 施設整備(併任)		
大西 和子	事務補佐員	施設	
建造物研究室	吉田 靖	文部技官 室長	建築
	井 伸雄	文部技官 (併任)	建築
	清水 真一	文部技官 (併任)	建築
	加藤 尤彦	文部技官 (併任)	庭園
	上野 邦敏	文部技官 (併任)	建築
歴史研究室	福山 敏男	文部技官 調査員(非常勤)	建築
	綾村 幸子	研究補佐員	資料整理
	坪井 清足	文部技官 室長(取扱)	古
	中村 友博	文部技官 (併任)	古
	綾村 隆雄	文部技官 (併任)	古

所属	氏名	官職	担当	
平城調査室	岡田 英男	文部技官 部長		
	考古第一調査室	工楽 善通	文部技官 室長	古
		土肥 孝人	文部技官 (併任)	古
		上原 真人	文部技官 (併任)	古
		杉山 裕之	文部技官 (併任)	古
		金子 裕之	文部技官 (併任)	古
		八幡 扶桑	文部技官 (併任)	古
		佃 幹雄	文部技官 (併任)	古
		池田 千枝	事務補佐員	真
		吉村 千朗	技能補佐員	真
		石川 恵子	研究補佐員	守
	考古第二調査室	森 郁夫	文部技官 室長	古
		安田 龍太郎	文部技官 (併任)	古
		巽 淳一郎	文部技官 (併任)	古
		立木 修	文部技官 (併任)	古
菅原 正明		文部技官 (併任)	古	
跡発掘調査室	山本 尚	文部技官 室長	古	
	千田 剛	文部技官 (併任)	古	
	毛利 光俊	文部技官 (併任)	古	
	中村 友博	文部技官 (併任)	古	
	岩永 省三	文部技官 (併任)	古	
遺構調査室	宮本 長二郎	文部技官 室長	建築	
	亀井 伸雄	文部技官 (併任)	建築	
	清水 真一	文部技官 (併任)	建築	
	山岸 常人	文部技官 (併任)	建築	
	田中 哲雄	文部技官 (併任)	庭園	
計測修景調査室	加藤 尤彦	文部技官 (併任)	庭園	
	本内 昭人	文部技官 (併任)	庭園	
	内森 昭人	文部技官 (併任)	庭園	
	森 昭人	文部技官 (併任)	庭園	
	田中 昭人	文部技官 (併任)	庭園	
史料調査室	鬼頭 清明	文部技官 室長	歴史	
	綾村 宏信	文部技官 (併任)	歴史	
	佐藤 善樹	文部技官 (併任)	歴史	
	清田 善樹	文部技官 (併任)	歴史	
	菅原 正明	文部技官 (併任)	歴史	

所属	氏名	官職	担当
飛鳥資料館	狩野 久	文部技官部長	古古真築古史
	佐藤 興治	文部技官部長	古古真築古史
	岩本 直輔	文部技官部長	古古真築古史
	井上 邦夫	文部技官部長	古古真築古史
	上野 真樹	文部技官部長	古古真築古史
	原田 清田	文部技官部長	古古真築古史
	下木 正隆	文部技官部長	古古真築古史
	西口 雄生	文部技官部長	古古真築古史
	山岸 剛道人	文部技官部長	古古真築古史
	見越 啓三	文部技官部長	古古真築古史
	川大 一深	文部技官部長	古古真築古史
	若林 正謙	文部技官部長	古古真築古史
飛鳥資料館	加藤 優三	文部技官部長	古古真築古史
	岡本 東和	文部技官部長	古古真築古史
	井上 和恵	文部技官部長	古古真築古史
	村田 龍太郎	文部技官部長	古古真築古史
	安内 昭人	文部技官部長	古古真築古史
	上野 邦一	文部技官部長	古古真築古史
	西田 健三	文部技官部長	古古真築古史
	飯田 信男	文部技官部長	古古真築古史
	石谷 幸正	文部技官部長	古古真築古史
	稲垣 耕正	文部技官部長	古古真築古史
	望月 正治	文部技官部長	古古真築古史
	宮川 伴二	文部技官部長	古古真築古史
飛鳥資料館	大滝 達夫	文部技官部長	古古真築古史
	藤田 正志	文部技官部長	古古真築古史
	幸広 幸志	文部技官部長	古古真築古史
	坪井 清足	文部技官部長	古古真築古史
	森口 節之	文部技官部長	古古真築古史
	外嶋 義広	文部技官部長	古古真築古史
	飯田 信男	文部技官部長	古古真築古史
	米田 二徳	文部技官部長	古古真築古史
	吉村 義照	文部技官部長	古古真築古史
	藤本 春雄	文部技官部長	古古真築古史
	乾 龍子	文部技官部長	古古真築古史
	藤本 福井	文部技官部長	古古真築古史

所属	氏名	官職	担当
飛鳥資料館	猪熊 兼勝	文部技官部長	古古真築古史
	小林 謙一	文部技官部長	古古真築古史
	津村 広志	文部技官部長	古古真築古史
	本村 修一	文部技官部長	古古真築古史
	藤沢 修一	文部技官部長	古古真築古史
	田中 琢	文部技官部長	古古真築古史
	織井 弘一	文部技官部長	古古真築古史
	小林 雅文	文部技官部長	古古真築古史
	竹島 弘美	文部技官部長	古古真築古史
	佐原 真	文部技官部長	古古真築古史
	松沢 亜生	文部技官部長	古古真築古史
	山中 敏	文部技官部長	古古真築古史
飛鳥資料館	町田 章二	文部技官部長	古古真築古史
	山崎 信二	文部技官部長	古古真築古史
	沢田 正昭	文部技官部長	古古真築古史
	秋山 隆保	文部技官部長	古古真築古史
	木全 敬蔵	文部技官部長	古古真築古史
	松本 自太	文部技官部長	古古真築古史
	伊東 作康	文部技官部長	古古真築古史
	西村 靖之	文部技官部長	古古真築古史
	岩本 次郎	文部技官部長	古古真築古史
	中川 隆	文部技官部長	古古真築古史
	伊東 太作	文部技官部長	古古真築古史
	西村 康治	文部技官部長	古古真築古史
杉田 繁治	文部技官部長	古古真築古史	
栗田 靖之	文部技官部長	古古真築古史	

機 構

